

第4回 周南市観光ビジョン策定委員会 議事録

日 時：令和6年12月16日（月）10：00～10：50

場 所：周南市役所 シビックプラットホーム 多目的室

出席委員：朝水 宗彦 委員 難波 利光 委員 山田 みゆき 委員 小野 拓二 委員
岡崎 麻衣 委員 宮崎 真紀子 委員 竹永 富夫 委員 組谷 明豊 委員
有田 由貴 委員

欠席委員：勝屋 幸代 委員

意見提出：井上 康 アドバイザー

事務局：文化スポーツ観光部長 観光振興課 計6名

傍聴者：1名

■会長のあいさつ

朝水 宗彦教授による挨拶

【議事】

議事進行 朝水会長

議題1. 第4期周南市観光ビジョン（素案）について

（事務局より説明）＜資料「第4期周南市観光ビジョン（素案）」＞

○委員からのご意見等

【会長】

「基本施策3 おもてなしの環境整備」のうち、「観光人材の育成・確保」について補足。
コロナ禍前と比較して、翻訳アプリやAI通訳機の性能が飛躍的にアップしている。
日本語を話せずとも、コミュニケーションを図るうえで利便性は格段に向上しており、基本的な事柄はこうしたツールで対応できるものと認識している。

【委員】

言語は何語をメインとするのか。

【事務局】

看板表記では英語をメインとし、その他の言語は翻訳アプリの活用を想定している。
今後の拡充については、インバウンド利用が増加した場合に改めて検討することとする。

【会長】

日本語と英語を併記する看板は多い。
有名な観光地では、看板の余白スペースに表示した二次元コードを読み取ることで多言語対応としているものをよく見かける。

【委員】

英語のほかに韓国語と中国語も必要ではないか。

ターゲット層にもよるが、例えば飛騨高山は単なる観光地に留まらず宗教のメッカでもあり、世界各国から訪れる人がいることから、11か国語かそれ以上の言語に対応していると記憶している。

韓国語では高性能かつ有名な定番の翻訳アプリがあるが、市ではどのようなアプリを活用するのか。

各個人が有するアプリでの翻訳に依存するのか、あるいは行政が提供する予定か。

【事務局】

今年度、大津島の観光案内をインバウンド対応とする取り組みを進めている。

その取り組みにおいて、無償でありながら8か国語に対応できるサイトと併せて、二次元コードを活用している。

【委員】

地域の偏り等なきよう、市内のイベント等観光資源の画像を掲載いただきたい。

【事務局】

内容を固めていく段階で、掲載する画像を充実させていく予定である。

議題2. 今後の策定スケジュールについて

(事務局より説明) <資料「策定スケジュール」>

○委員からのご意見等

なし

■各委員からの言葉

【委員】

徳山動物園のリニューアル事業と観光ビジョンの策定に関わることができた。

引き続きビジョンの実現に向けて一緒に取り組んでいければ。

【委員】

一昨年から湯野温泉への集客を図るための土台を固めてきた。

今後は鹿野地域や道の駅ソレーネ周南、徳山動物園も含め、全域に及ぶ連携を期待している。

ビジョンの実現に向けては進捗管理や評価を行うことが重要と考えている。

【委員】

まちづくりにおいても観光においても、各プレイヤーが尽力している。

徳山駅では南口の利活用に光が見えてきたので、来年度以降、県とも連携しながら様々な取り組みを進めていければと考えている。

【委員】

市民目線で感じたことを広く発信できるよう団体を立ち上げた。
市をもっとよくするために取り組んでいきたい。

【委員】

市民一人ひとりが自分ごとと感じられるよう市が活性化し、自分が参加してつくりあげているという充実感を得られると良い。
そうした点で、「基本施策1 日常をときほぐす観光の推進」に「1 土地柄・風土を生かした観光の推進」を加えていただいたことは大変嬉しいこと。
一方で、周南公立大学についての記述が乏しい。
全国から若い力が集まっており、選ばれる市になっていると感じているので、若者の発信力や意見を取り入れると良いのでは。

【委員】

現周南公立大学は母校であり、当時、付近のバス停には一便に乗り切れないほどの学生が溢れていた。
今そうした賑わいが戻りつつあり、当商工会議所でも大学との連携を図っているところ。
また、創業支援に取り組む中で女性創業者が多く、子育てや仕事をしたくなる魅力を持つ市だと実感しているので、より一層住みやすいまちになれば。

【委員】

先日、道の駅ソレーネ周南ではオープンから800万人目となるお客様をお迎えした。
いち早く1,000万人を達成するためにもビジョンの実現が重要。
6つの施策に掲げた取り組みは計49もあり、全てを実行に移すのは容易ではないだろうが期待している。

【委員】

第3期のビジョンでは策定直後にコロナ禍に見舞われたが、今は多くの人が観光を楽しめる状況に回復した。
ただし、市の観光について課題は認識しているので、引き続き市や関係事業者等と連携し、観光振興を図っていく

■まとめ

【朝水会長】

周南公立大学には全国各地から学生が集まっているということなので、観光分野において学生の意見や調査研究を反映していくというのはいかがでしょうか。
今回の策定委員会をもって全員が顔を突き合わせるのは最終回となるが、今後もパブリックコメントまで調整の機会が設けられているので、委員の皆さんには引き続き協力をお願いしたい。

■総括

【井上アドバイザー】

積極的かつストレートな意見交換の場となった。

ビジョンの計画期間は5年間であるが、観光や旅行のトレンドやニーズが変化するスピードは桁違いで早くなっている。

計画を実行に移すのは容易ではないが、時代と情報を敏感に捉えつつ、委員のご意見を踏まえ取り組んでいただきたい。

例えば、工場夜景のコンテンツではタクシードライバーが不足しているという問題がある。

これに対して、ライドシェアの活用等をはじめ、実現に向けて可能性を突き詰めていく必要がある。

情報発信では、とあるテーマパークがクリスマスのプロモーションについて、ターゲットの深層心理に訴えたものに改めたところ利用者が倍増したという例もある。

東京地名も含め、市には尖った地域資源があるので、それらをフル活用してプロモーション等を図っていただくとともに、我々も更なる盛り上がりを実現するためのお手伝いができればと考えている。

■挨拶

周南市文化スポーツ観光部 部長 河津 浩之